令和7年度 第1回太良町教育環境整備検討委員会会議録（要点筆記）

日 時 令和7年5月15日（木）14:00～15:35

場 所 太良町中央公民館 2階視聴覚室

出席者 委員 19名

高松委員、赤木久美子委員、鶴田委員、大岡委員、坂口委員、大鋸美里委員、大鋸寛委員、巨瀬委員、松本委員、永淵委員、田崎委員、古庄委員、川浪委員、陣内委員、赤木一成委員、熊本多良小校長、喜多大浦小校長、武富多良中校長、森大浦中校長

事務局 9名

岡教育長、與猶学校教育課長、西田社会教育課長、福田学校教育係長、岡指導主事、松本生涯学習係長、織田スポーツ振興係長、木原文化振興係長、石丸係員

欠席者 委員 2名 合浦委員、西田委員

1. 開会 與猶課長

- ・委員の紹介

2. 委員長挨拶

- ・太良町が合併して70年になる。合併当時の人口は約15,800人だったが、現在の約7,800人である。このような状況の中、今後の教育環境の整備に関して皆さんの意見を承りたい。

3. 報告事項

(1) 経過報告及び今後の予定について（学校教育課長）

(2) 児童生徒数の推移予測について（学校教育課長）

（質問・意見等）

熊本委員：今後の校舎改築長期計画が示されているが、多良小は校舎の1階廊下が屋外になっているため、給食を運ぶ際、食器等に雨風にさらされ衛生面の問題がある。

学校教育課長：多良小学校の管理教室棟はその都度改修を行ってきたが、そのような問題があることを把握していなかった。教育委員会にて、どのような対策が必要か検討したい。

赤木一成委員：「太良町立小・中学校の将来の在り方に関するアンケート」の結果について説明してもらったが、その内容はホームページ上のどこに示されているのか。

学校教育課長：太良町のホームページの一番下「太良町教育委員会」コーナーから「太良町立小・中学校の将来の在り方に関するアンケート調査結果」を掲載している。調査結果と分析結果の資料である。その他、検索より「アンケート」と入力すれば探

せる。

赤木一成委員：今回、アンケート結果については、本日の会議資料として準備してもらうとよかったと思う。手元に具体的な数字がないので、状況がつかみにくい。

※本意見後、アンケート結果を急遽印刷し配布。

田崎委員：町外の中学校を受験し、その中学校へ進学する子どもが毎年1～2人ほどいる。逆に、町外から児童生徒を呼び込むようにできないのか。

岡教育長：毎年2人程度増えれば、児童生徒数が極端に減ることはないと思う。資料で示しているように、令和13年度には小学1年生が多良小学校と大浦小学校合わせて26名になる予想である。町としては、様々な支援をしており、子育てしやすい町であることを広報していきたい。皆さんにも、町外の方への啓発をお願いしたい。

陣内委員：この会議が学校統合を前提とした会議なのか、現状維持したいために人を呼び込むために町おこし的なことをするための会議なのか、教えて欲しい。

学校教育課長：この会議は学校統合前提の会議ではない。

岡教育長：子どもの数が減っている現状を踏まえ、町民、小学校高学年、中学生、高校生、保護者などにアンケートをとり、意見を聞いたところ。その結果を踏まえて、今後の学校環境をどのように整備するのか、検討する会議になる。

陣内委員：学校統合するための判断材料として、要因、コスト、サービス力、学校施設整備に関する費用や維持費など、判断基準があればわかりやすいと思う。

岡教育長：コスト等についての検討は、方向性が決まった後になる。この検討委員会では、総合教育会議での話し合いを受けて、まずは少子化をめぐる太良町小中学校の教育課題や状況などを洗い出し、太良町なりの望ましい学校の方向性を探っていくことになる。

巨瀬委員：環境に合わせた教育環境を作っていかなければいけない。この検討委員会自体が、統廃合によって母校がなくなる事のみをクローズアップさせたりせず、これからの児童生徒の学校教育を充実させるために、どのような形が最善策なのかを皆さんで考える場になっていけばと思う。

川浪委員：統廃合するにしても、まだまだ時間がかかるという印象を受けた。その場合、自分の子供は卒業するので、園児の保護者の方が多数参加された方がいいのではないのかと考える。

4. 協議事項

(1) 視察研修について（学校教育課長）

①視察先について

芦刈観瀾校及び白石中学校で承認。

②日程について

令和7年6月20日で承認。

③研修内容について

以下のとおり承認。

(芦刈観瀾校)

- ・小中一貫校として開校した経緯について
- ・開校後の問題点とその対応について
- ・通学方法について
- ・授業風景の観覧

(白石中学校)

- ・統合に至った経緯について
- ・統合後の問題点とその対応について
- ・通学方法について
- ・統合前後における保護者や生徒の意見について
- ・合併後の部活動における生徒たちへの影響について

(視察時質問項目についての意見・要望等)

鶴田副委員長：白石中学校への質問として、統合に至った理由と、それに伴う問題点と対応策について聞きたい。

大岡委員：芦刈観瀾校への質問として、9年間の一貫した教育によって基礎学力のアップが図れるか伺いたい。

田崎委員：再編後の状況について、両校の保護者はどういう意見をお持ちか聞きたい。

陣内委員：統合する前に想定していたメリット、デメリットが、統合した後、実際どのような状況になったのか。想定通りだったのか、そのメリット、デメリットについて聞きたい。

赤木久美子委員：統合して、また、小中一貫校になっての、良い点、悪い点、それに対する対処方法について伺いたい。

大鋸寛委員：小城市では、芦刈観瀾校だけが小中一貫校になっているのか。

学校教育課長：小城市では芦刈観瀾校だけである。

大鋸寛委員：芦刈観瀾校のように、小中一貫校として9年間一貫した総合的・計画的な教育活動の場合は、9年間同じ方向を向いて同じ教育ができるという考え方でいいのか伺いたい。個人的な意見だが、25年後に人口が劇的に減少する統計が出ている事を考えると、4校を統合し太良町に小中一貫校を1校にする事が望ましいのではないかと考える。

巨瀬委員：小中一貫校のメリット、デメリットについて聞きたい。

松本委員：保護者にどのような意見があるか伺いたい。

永渕委員：統合後、当該中学生がどう感じているのかを伺いたい。

古庄委員：統合した学校の子供たちの反応や問題点などについて聞きたい。

川浪委員：統合した学校側、保護者、子ども達の意見について。

赤木一成委員：芦刈観瀾校へは学力について。

熊本委員：大町ひじり学園は小中一貫校なので、5年生から50分授業となっている。卒業式は9年生(中学3年生)のみで、6年生は進級式となる。また、同じ小中一貫校でも各学校で微妙な違いがある。今回は、芦刈観瀾校、白石中学校について、統合する前と統合後の状況をどう感じているか、それらを両方経験している子どもと保護者の考えを聞けるといいのではないかと考える。

喜多委員：各学校ともに、統合の話は何年かけて決まったのか等これまでの経緯と、使われなくなった校舎の有効活用や活用状況について伺いたい。

森委員：統合後の教員の勤務状況と課題を抱えていた子ども達にどんな変化があったかについて伺いたい。

社会教育課長：統合した後の部活動の状況について伺いたい。また、統合した事で子ども達にどんな影響があったのかについてお尋ねしたい。

高松委員長：統合した白石中学校については、統合後の子ども達の心の変化について聞きたい。また、統合にあたって統合前の学校同士の敵対意識などは生じなかったのかについて聞きたい。

芦刈観瀾校では、6年生の卒業式がないことを子ども達がどう感じているのか、また、6年生と7年生で（指導の仕方や）評価が変わってくると思うが、そのことにどのように対応されているかについて伺いたい。

5. その他

なし。

6. 次回開催日 令和7年7月17日（木）14:00に決定

終了 15時35分